

U.S. Indicators

発表日: 2024年8月23日(金)

米国景気は8月堅調維持も雇用、インフレ鈍化(8月PMI)

～民間需要はサービス主導で堅調さ維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel: 050-5474-7493)

24年8月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、54.1(前月54.3)と前月比0.2%ポイントの低下にとどまり、市場予想の53.2(筆者予想54.2)を上回った。同統計調査対象企業の活動や民間需要の拡大ペースが小幅鈍化にとどまっていることが示された。8月総合PMIは、拡大縮小の分岐点である50を19カ月連続で上回ったうえ、水準も高く、米景気が堅調さを維持していることを示唆している。

製造業は、48.0(前月49.6)と前月比1.6%ポイント低下し、縮小ペースの加速が示された。一方、サービス業は、55.2(前月55.0)と前月比0.2%ポイント上昇し、速いペースでの拡大を示した。内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に19カ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回ったうえ、足元で米民間サービス業の活動が活発化したことが示された。

総合新規受注は、52.3(前月52.2)と上昇し、需要の拡大ペースが小幅加速したことを示した。製造業が47.2(前月47.7)と低下した一方、サービス業が53.3(53.0)と上昇した。しかし、総合雇用は48.9(前月51.6)と50を下回って低下し、雇用の縮小が示された(雇用統計では雇用の増加ペース鈍化)。製造業が50.2(前月51.6)と50を維持したが、サービス業が48.7(前月51.7)と50を下回り、雇用の減少を示す水準に低下した。

インフレ関連では、総合投入価格指数が58.0(前月58.0)と横ばいとなった一方、総合産出価格指数が54.1(前月54.3)と小幅低下しており、消費者段階でのインフレ圧力の若干の緩和が示された。製造業では、投入価格指数が57.5(前月56.5)、産出価格指数が52.9(前月50.5)とともに上昇し、財価格の上昇ペース加速を示した。一方、サービス業では、投入価格指数が58.0(前月58.3)、産出価格指数が52.8(前月53.6)とともに低下する形で、サービス価格の上昇ペース鈍化を示唆した。

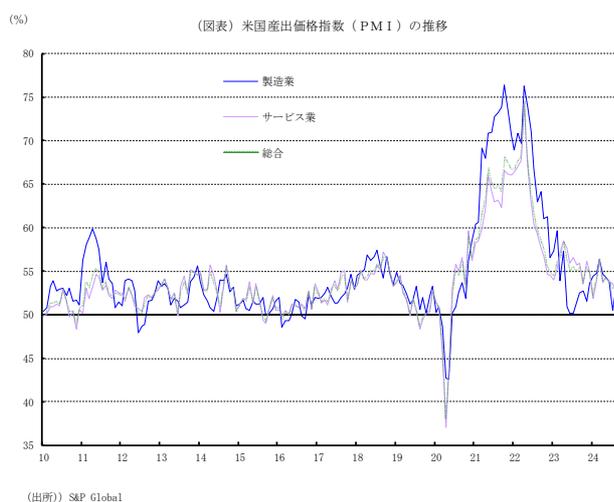
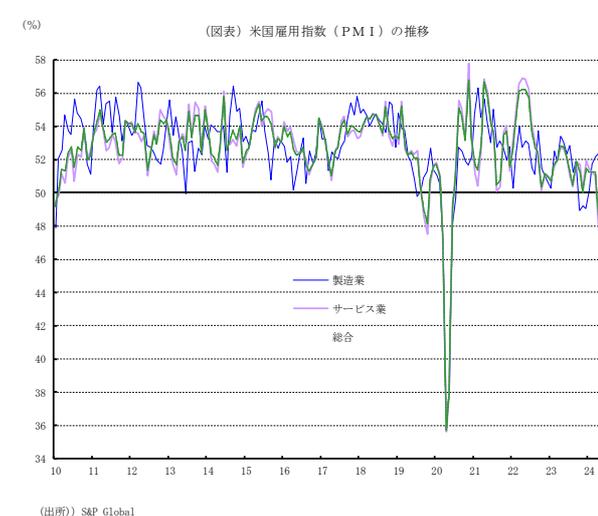
製造業では、生産が47.8(前月50.5)、新規受注が47.2(同47.7)、在庫が47.2(同48.7)と低下し、50を下回った。雇用は50.2(同51.6)と低下したが、50台を維持した。寄与度では、生産が前月比▲0.66%ポイント、入荷遅延が前月比▲0.40%ポイント、雇用が前月比▲0.27%ポイント、在庫が前月比▲0.16%ポイント、新規受注が前月比▲0.14%ポイントの押し下げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が55.2(前月55.0)と上昇し、事業活動がより活発化したことを示した。また、新規受注が53.3(前月53.0)と上昇、需要の拡大ペース加速を示した。さらに、「将来の活動指数」が66.6(前月65.1)と上昇し高い水準を保っており、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を維持し続けている。

24年7-9月期(7、8月平均)の総合PMIは54.2と4-6月期の53.5からさらに上昇し、7-9月期に米民間需要の拡大ペースが加速していることを示している。製造業が48.8(4-6月期



50.9) と低下した一方、サービス業が 55.1 (4-6 月期 53.8) と上昇しており、サービス需要がけん引役となり、民間需要が堅調さを維持している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。